

関東大震災 —震災地外避難民の動向—

於日本復興学会
2011年1月8日
発表者 北原糸子

被災地における避難動向その1

- 避難民の避難行動
 - 第1段階(1~3日間程度)
直後 食糧、医療救護を求め、各地を徘徊
 - 第2段階(4日~7, 8日程度)
やや恒久的救護を求めて、自己建築/市内外へ
 - 第3段階(10日程度~)
食糧配給は罹災者のみに限定
一般への無料配給停止
 - 第4段階(2週間程度~)
バラック建設→入所開始、木材支給→自費建設

2

被災地における避難動向その2

- 9月2日~13日
退京者 175万6000人
入京者 102万6000人
差引き 72万9000人
- 9月13日現在人口 157万

出典:国立公文書館 関東大震災関係資料

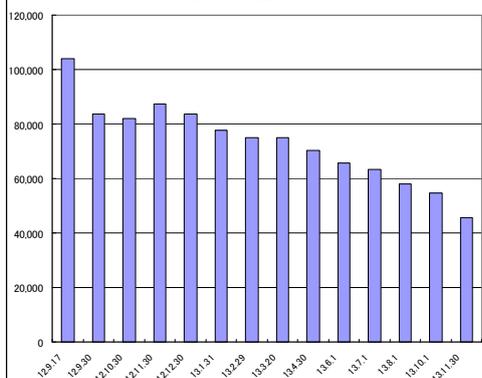
3

避難民の動向

- * 直後(9月1~3日)
宮城前広場、上野公園などに1, 2日後
- * 帰住者(9月4日~)
罹災者はそれぞれ所有地に仮小屋設置
- * 食糧・水の無料配給(~9月11日、12日)
- * 公設バラック入所(東京市集団バラック)
- * 慈善バラック入所(三井今井邸バラック)
- * 給付建築材料にて自己責任でバラック設置

4

東京市集団バラック人員



被災地バラック収容人員
出典 国立公文書館関東震災

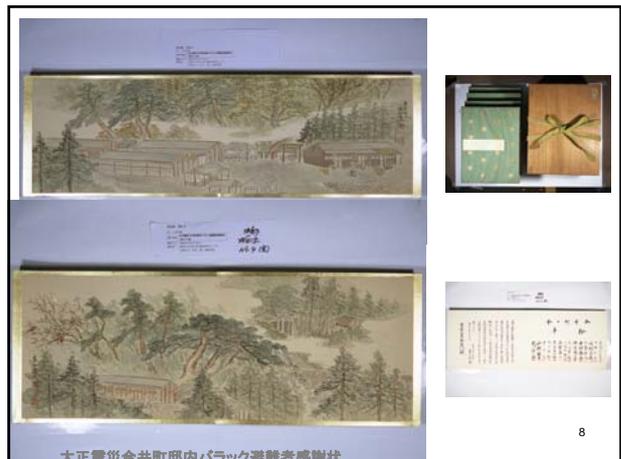
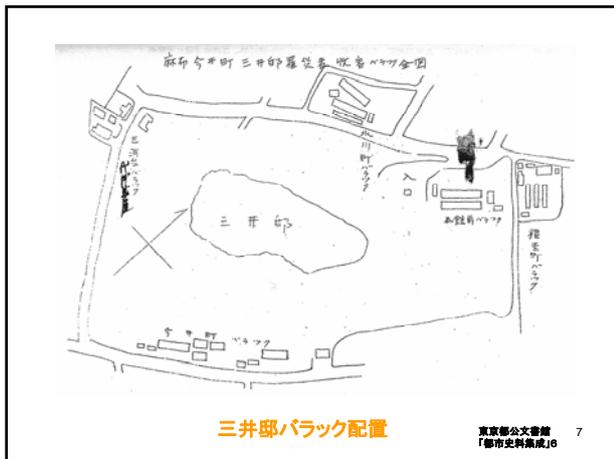
5



麻布今井町三井邸内、同門前、氷川神社境内、福吉町(三井家所有地)
9月6日起工、12日竣工 収容開始
33棟116室

慈善バラック麻布三井邸

6



大正震災今井邸内バラック感謝状

- 資料の性質
大正大震災にさいして急に町会結成の必要。臨時町会を設け、町会長鹿島利佐平、副会長柘植平太郎 選任
- 町会役員は三井邸内避難者バラック2百戸の救護にあたる。「後避難者一同より連名の感謝状を贈られ、三井家よりも町会基本金の内に金一封が贈呈された。町会はこのを以て家屋を建築し、現にその家賃収入を以て町会費の一部に充当している。」

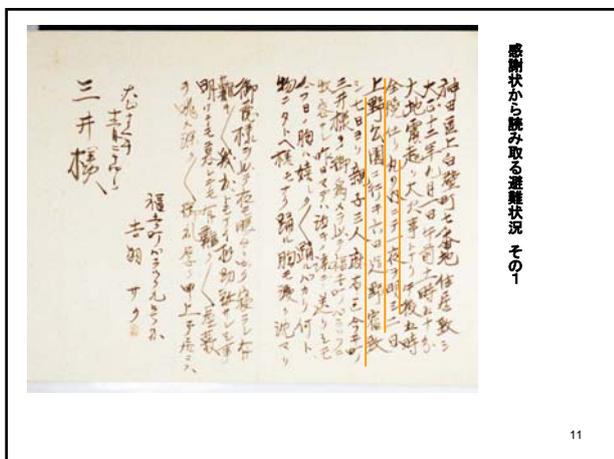
『麻布区史』pp575～576

麻布三井邸バラック避難者家族構成

一九三三年十一月十九日現在

家族数	男	女	計	世帯数	世帯主+家族
0	0	0	0	15	15
1	5	22	27	27	54
2	25	43	68	34	102
3	32	58	90	30	120
4	32	56	88	22	110
5	34	46	80	16	96
6	15	15	30	5	35
7	11	17	28	4	32
8	10	14	18	3	27
9	4	14	18	2	20
10	4	6	10	1	11
計	172	291	463	159	622
不明	—	—	—	15	—
合計	—	—	—	174	622

東京都公文書館
『都市史料集成』6

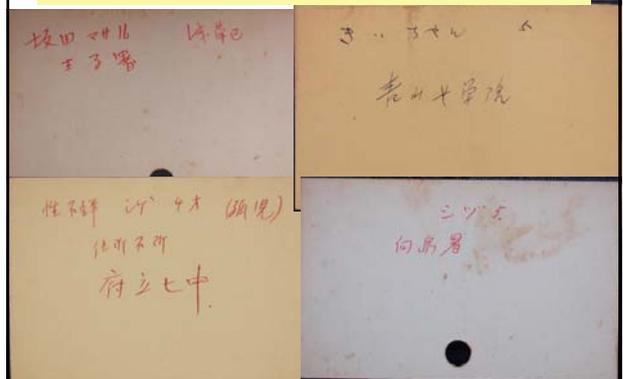


避難者カード(東京都慰霊堂保管)



13

氏名・年齢・居住地・避難場所



避難者調査カード

- このカードは今次の震災に際して東京市政調査会臨時救護部が学生諸君の熱烈な義侠的活動の下に実地に就き調査した避難者の名簿です。九月八日から十二日かけて調べたもので、枚数約二万、包含人員約十以上の行衛不明者と尋ね人の為に利用されました。(改造社『大正大震災災誌』1924年、口絵)

15

震災県以外の行政資料

- 対応策
①徴発物資、②救援隊派遣、③避難民受け入れ、④義捐金品募集、⑤その他

長野県歴史館、群馬県公文書館、
福島県歴史資料館 京都府総合資料館
滋賀県県政資料室 愛知県公文書館、
奈良県図書情報館 埼玉県公文書館
秋田県公文書館 北海道公文書館
宮城県立公文書館

16

罹災地外の各県の震災対応

- 震災県以外の県の関東大震災行政資料
- ①徴発物資 大阪、秋田、福島の事例
- ②救護団 群馬県の実例
- ③義捐金品募集 福島県救済委員会
- ④関西府県聯合救援 京都府文書×
北信五県聯合救援 長野県歴史館文書×
- ⑤避難民受け入れ 群馬県公文書館
愛知県公文書館
長野県歴史館文書

17

各県の対応

大阪府 内務次官指令 9月4日 大阪倉庫の政府米4940俵船舶で輸送
義捐金 9月5日募集開始、9月30日段階にて600万円

秋田県:

- 9月3日 社会局長官から買い付け指令
- 9月4日 浅舞・大曲・横手・後三年・湯沢駅(2064俵)
- 9月6日 1025俵(総計 7391俵送付)代金10万余円
- 同日午後6時「米輸送打ち切り司令」確認、果実、蔬菜他の食品送付とする
- 9月6日～15日 木村3万石(臨時救済事務局へ輸送)
- 義捐金 9月3日 高等官月俸の1割、判任官以下月俸の5分(概算104,325円)=第1回義捐金

福島県

- 9月3日 義捐金募集企画、東京地方震災救済会を組織、趣意を各新聞に発表 義捐高22万5716円余
- 9月2日 物資買付け、4日～7日間にて、白米5635俵(1俵=4斗)を発送、川口駅出張の吏員にて引き渡す、8日以降は米の発送見合わせの指令あり

18

各県の対応

群馬県

9月3日 救護所 東京府庁に到着後、本所区に出動す
藤代町東京金物競売株式会社建物内に救護所開設、本所被
服廠焼跡中心に傷病者の救護

この夜、消防手中に勤務に堪えず、苦情を言う者4名帰県す
消防組員点検のところ、52名中残留者26名となり、半分の者
が無断帰県

9月5日 傷病者救護約2000名と推算す

収容所の患者・死亡者数、患者350名、死体47

- 救護班総出動人員(青年団、在郷軍人分会=靖国神社境
内・北白川宮邸の復旧作業、消防組員) 91班3339人、他
に任意出動18版351人 (9月3日~5, 6日)

19

郡市	班数	青年団	軍人分会	消防組	その他	計
勢多	11	110	110	110		330
群馬	4	120	120	120	32	392
多野	3	35	35	33	11	114
北甘楽	4	35	57	44	11	147
碓氷	9	90	103	106	13	312
吾妻	3	26	67	32	8	133
利根	3	26	67	32		90
佐波	3	175	175	175		525
新田	18	35	102	455		592
山田	3	39	42	30	2	116
邑楽	3	44	44	44	11	143
前橋	3	14	52	*50	4	70
高崎	3	50	60			110
桐生	3	30	30	36	6	102
計	73	833	1027	1215	101	3176

避難者前住所・避難先関係 (群馬勢多郡役所書上から)

場所	人数	実家	親戚	知己	帰宅	不詳
赤坂区	9	5	3			1
遼東区	31	23	8			
神田区	43	23	18	2		
京橋区	19	18		1		
小石川区	7	4	3			
麹町区	2			2		
下谷区	28	11	14	1	2	
芝区	5	3	1		1	
日本橋区	19	9	2	7		1
本郷区	6	5	1			
源川区	69	35	21	9	4	
本所区	45	16	25	1	3	
四谷区	1	1				
府下	60	34	17	2	7	
神奈川県	4					
横浜市	15	5	9		1	
計	363	182(53%)	122(34%)	25(0.9%)	18(0.5%)	1

21

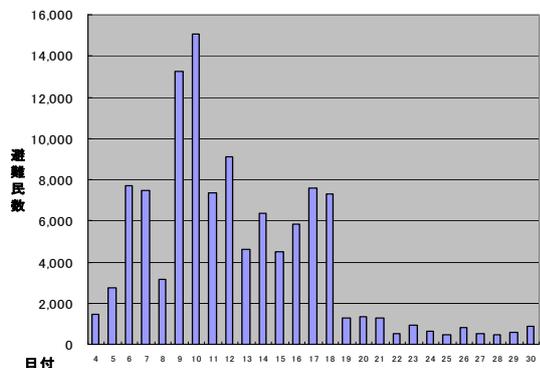
各県の対応

愛知県

- 事務所: 芝浦日の出町、横浜桜木町に本県出張所設置、諸事務、本県出身者の世話、送還方法など担当、~10月8日引き上げ、派遣官吏93名)
- 救護班、県技師、看護婦、其の他愛知医科大学など派遣
- 罹災者救護: 9月9日出発、救護所を赤坂見附、避難所を明治神宮外苑十芝区本芝町1丁目に設置、巡回救護、救護人員600名、~9月23日閉鎖
- 県内避難者: 9月4日午後4時名古屋駅避難民300名をはじめ、下車避難民多数、9月30日までの数値(名古屋港1819人、名古屋駅14万2523人、熱田駅527人、千種駅5064人、大曾根駅1494人、総計15万742人)

22

愛知県避難民推移 1923年9月

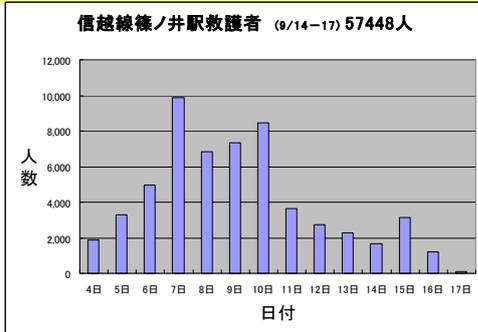


避難者救護 長野県→郡市へ

1. 主なる停車場に救護所を設けること
2. 救護所は、郡(市)町村に於て之を直営、若しくは特志団体有志等をして之を設くべし
3. 救護に簡易な救護材料、炊出、湯茶などの準備すべし
4. 係員は避難者の相談相手となり懇切にすべし
5. 避難者名簿を作成し、列車到着毎に各車内に適宜 数冊を配布し、避難者をして各自記入せしめ若しくは係員之を記入すること

24

篠ノ井駅信越線・中央線乗継駅避難者



25

信越線軽井沢駅の避難者



26

上水内郡中郷村 罹災者帰郷人員調報告の件

9月15日現在 罹災者の生活状態

「何れも親戚へ避難したるものにして既に大部分は出立帰行せり、残留者は何れも其家の業務を手伝へ居り、差当り困難を感せず、従って特殊なる救護法方を講ずるの必要を認めず」

9月25日現在 避難滞在者の救護

「県内滞在人員約2万人、このうち**食客的避難者5338**人、資産を有せざるのみならず当分職業を有せざる者、今後の救済は極めて重要な問題」

27

一般避難者→要救助者へ

- 9月末段階 把握数
- 出寄留者: 上水内郡 5,097人; 小県郡 6,001人
- 帰郷者: 上水内郡 1,816人; 小県郡 2,415人
cf.表 1a, b、表 2
- 罹災地へ戻る者/避難地へ残る者
- 罹災者要救助者
長野県 140世帯 769人 cf.表 3

28

長野県相談所開設

- 10月2日開設認可
- 10月3日準備の上京
- 事務所 小石川伝通院裏 表町109番地
- 場所選定、協力依頼先: 県人会ネットワーク
- 10月10日開設~11月14日閉鎖 cf. 表 4
- 開設の趣旨: 親切と敏速を旨、各相談に対しては相手方の人格を尊重し、其の荒みたる精神を慰安して光明を認めしめ奮励努力の基礎を作るを主とせり

29

まとめ

被災者への対応策

於被災地: 被災者の動向把握困難
帝都という都市の特殊性
戦時景気による都市人口の急増
被災地外: 実家、親戚への一時帰還、
同郷者の救援の優先、郷党意識
県人会組織の有用性(被災地内外)

行政組織 地方長官(県知事)を介する上位下達
震災時の救援体制=国民総体を巻き込む体験

→戦時体制下において蘇生

30

罹災者人員調(9月25日現在) 上水内郡町村

寄留先	大豆島	朝陽	柳原	長沼	鳥居	神郷	古里	若槻	浅川	高岡	中郷	三水	信濃尻	柏原	古間	富士里	芋井	戸隠	柵	鬼無里	北小川	南小川	津和	水内	栄	日里	七二会	小田切	安茂里	合計
東京市	79	198	85	237	119	218	160	271	94	254	290	329	135	122	149	25	37	95	90	32	51	87	44	172	69	71	80	69	226	3,888
横浜市	6	9	3	12		15	13	18	11	11	13	86	12	14	10			2	3	11	3	5	1	12	3	2	8	2	8	293
千葉		3	0	2	3	17	0	0	2	0	2	6	5	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	0	0	2	0	9	60
群馬	10	21	5	22	0	23	0	0	5	0	35	18	17	11	0	0	1	12	3	0	1	3	5	15	6	0	17	0	0	227
埼玉	88	7	6	2	26	72	0	0	1	0	9	57	5	5	0	0	2	0	2	0	4	7	2	30	7	3	16	7	15	373
神奈川	16	6	0	13	21	6	0	0	1	0	22	8	18	9	0	0	0	1	15	8	0	9	0	3	3	0	2	2	21	144
静岡	0	1	0	3	5	8	0	5	0	0	16	10	3	0	0	0	2	0	2	4	0	2	5	2	1	0	0	3	0	72
計	199	245	99	291	174	359	173	294	114	265	387	514	192	161	159	25	42	110	115	55	60	117	58	237	89	76	125	83	279	5,097

帰郷者

東京市	40	62	16	66	5	105	58	167	20	73	164	141	8	87	46	25	7	32	14	7	1	17	26	26	8	19	27	25	191	1,483
横浜市	3	2	0	5	0	9	8	7	0	1	6	29	5	8	4	0	0	2	1	2	0	0	1	2	0	1	2	2	7	107
千葉	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
群馬	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
埼玉	55	1	0	1	1	50	0	0	0	0	2	28	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	10	157
神奈川	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	15	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11	37
静岡	0	0	0	0	1	5	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
計	98	66	16	73	7	186	66	175	20	74	179	219	13	105	50	25	7	25	15	9	1	17	27	28	8	20	32	32	219	1,816
入込人数	1	113	0	34	52	0	0	0	5	0	16	58	0	0	0	0	11	6	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	89	356

出典 長野県 大12-2B-3-1

表3

1,816
5,097 36%の帰郷率

震災罹災者要救助者

郡市	世帯	男	女	計
南佐久	0			0
北佐久	12	17	35	52
小県	0			0
諏訪	3	6	2	8
上伊那	0			0
下伊那	15	16	14	30
西筑摩	6	11	10	21
東筑摩	0			0
南安曇	0			0
北安曇	0			0
更科	2	3	2	5
埴科	1	2	2	4
上高井	1	3	2	5
下高井	21	33	25	58
上水内	0			0
下水内	1	2	5	7
長野市	58	233	246	479
松本市	0			0
上田市	20	48	52	100
計	140			769

長野県小県郡罹災者動向

罹災地出寄留者	3,991	472	1,335	203	6,001
安否不明者	282	86	86	33	487
帰郷者	1,848	150	375	42	2,415
帰郷せず安全なる者	1,843	215	887	126	3,071
死亡者	25	2	1	—	

	千葉県	群馬県	埼玉県	静岡県	
帰郷者	10	3	19	6	38

出典 長野県「震災関係書類」(大14-2B-1-6) p27~38

表1 a

表1 b

表2

表4

長野県臨時相談所 10/8~20

郡・市	職業	資金	旅費	被服	住宅	親戚	法律	救助	その他	合計
南佐久	27	19	4	102	9	2	1	1	7	172
北佐久	47	32	9	129	10	1	2	0	9	239
小県	42	45	1	196	12	1	4	0	14	315
諏訪	38	22	10	95	6	0	1	0	12	184
上伊那	72	59	15	227	18	4	4	0	22	421
下伊那	33	43	6	146	4	0	1	1	8	242
西築摩	14	8	1	43	2	0	0	0	1	69
東築摩	36	18	5	122	12	0	2	1	6	202
南安曇	17	6	0	20	1	1	0	1	0	46
北安曇	15	11	2	40	2	0	0	0	2	72
更級	47	27	5	155	14	2	1	1	3	255
埴科	46	25	8	129	7	0	3	1	12	231
上高井	21	19	3	116	7	0	1	2	10	179
下高井	32	32	5	167	16	0	2	0	11	265
上水内	65	26	3	193	13	1	2	0	13	316
下水内	27	12	5	139	3	1	1	0	9	197
長野市	27	29	9	152	6	0	1	0	11	235
松本市	20	21	2	69	7	0	1	0	5	125
上田市	22	23	1	101	12	1	1	0	9	170
計	648	477	94	2341	161	14	28	8	164	3935